

ジュニアドクター育成塾 取組報告

多自然居住地域における理工系人材の発掘と
世界に羽ばたく人材育成プログラム

令和5年 1月31日 連絡協議会

国立舞鶴工業高等専門学校

自然科学部門 上杉 智子（実施主担当者）

目次

■企画概要と目的・目標

■達成状況

- 受講生の募集・選抜状況
- 第一段階・第二段階プログラム

■進捗状況

- 指導体制の構築
- 指導方法・評価方法の開発
- 実施体制の構築状況
- 自立展開に向けた計画
- 修了生の活躍状況の把握

■プログラム全体の主な成果・課題

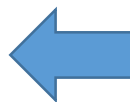
■今後の重点課題とその対応策

企画概要と目的・目標

目的:

- 北近畿の多自然居住地域の児童生徒から、世界の第一線で活躍できる理工系人材を育成する

豊かな自然環境の中で育ち、理系の優れた才能を秘めた児童生徒



最先端の科学技術に触れさせ、才能を開花させる機会を提供

- この取組を通して、ICT活用の効果的な方法を整備し、他の多自然居住地域にも適用できる人材育成の方法を構築する

対象地域： 京都・兵庫・滋賀・福井

(小5～中3)  一次選抜 (約40名)

第一段階プログラム (8月～12月の5ヶ月程度)

○第一期生 (令和元年8月～12月) …月2回、13時～17時、全10回

- ・基礎講座 (2回) …数学の基礎知識、測定値の扱い、プログラミング
- ・総合的学習 (2回) …様々な分野が関わるテーマの学習
(テーマ：防災、エネルギー)
- ・課題学習 (3回) …4コースでの課題解決型学習
(設計、AI・IoT、ロボット、建築・防災)
- ・体験型学習 (1回) …連携機関の施設見学・科学館見学
- ・特別講義 (1回) …技術者・科学者の講演、研究倫理の講義
- ・成果発表会 (1回) …課題学習などの取組をもとに発表を行う

目標： **基礎学力・表現力・幅広い分野への関心・観察力・
論理的思考力** の育成



二次選抜
(約10名)

第二段階プログラム (月2回程度、年16~20回)
(5月~12月、1月~3月のうち8カ月程度)

- ・ 研究室配属による課題研究
 - 機械工学科 …材料実験、ものづくり (自動車)
 - 電気情報工学科 …電気・電子系、情報通信系
 - 電子制御工学科 …ロボット製作とプログラミング
 - 建設システム工学科 …建築、防災、環境
 - 自然科学部門 …数学、物理学
- ・ 留学生との交流 (課題研究での交流+交流会)
- ・ ICT活用により遠方からの受講生に対応
- ・ 研究フォーラムの開催 (3月)

目標 : 将来、世界の第一線で活躍するための素養 (課題提案力・分野横断的思考力・独創性・データ解析能力・高度なコミュニケーション能力など) の育成

受講生の募集・選抜状況

対象地域： 京都・兵庫・滋賀・福井

令和4年度の応募：43名

⇒ 第一段階受講生：40名 を選抜

令和元年度の応募：94名

⇒ 第一段階受講生：42名 を選抜

令和2年度の応募：75名

⇒ 第一段階受講生：40名 を選抜

令和3年度の応募：63名

⇒ 第一段階受講生：42名 を選抜



令和4年度の受講生の募集：

- ・令和2年度以降はPCまたはタブレット端末があること、インターネット環境があることを応募条件に追加し、面接の代わりに課題(アイデアシート)を追加

舞鶴高専
ジュニアドクター
育成塾

The important thing is not to stop questioning.
大切なのは、疑問を持ち続けることだ
アインシュタイン

第四期
受講生募集!

こんな君は、
ジュニアドクター向き!

理科や数学が大好き!
工作や発明工夫が大好き!
好奇心旺盛で
新たなことに挑戦したい!

〇〇人がせと
呼ばれたことがある
もしくは
将来人がせになりたい!

場所 舞鶴工業高等専門学校
参加費 無料 (舞鶴市までの交通費は自己負担)
対象 小学5年生～中学3年生 (約40名)
受講条件 感染症の状況によりオンライン授業に切り替えることがあるため、通信制のないインターネット環境とパソコンあるいはタブレット端末が必要です。
選抜方法 応募者に手書きの作文等の課題を郵送していただき、選抜を行います。
受講期間 令和7月～令和12月
4ヶ月程度(週で全11回を予定)
遠征授業のため受講生は必ず参加します。
詳しくはホームページをご覧ください。
開催日程 土・日曜日 13:00～17:00
実施回により開講日や曜日を変更することがあります。

応募方法 舞鶴高等ジュニアドクター育成塾のwebサイト
<https://jrdactor.maizuru-ct.ac.jp/>
応募フォームから必要事項を入力の上、応募書類を自由にお持ちください。応募フォームへの入力とは別添付の応募用紙を添付して郵送してください。 **申込期間：7月1日(金) 必着**

問い合わせ 国立舞鶴工業高等専門学校
ジュニアドクター育成塾事務局
〒769-8611
京都府舞鶴市宇白屋 234 番地
電話：0973-62-5600
Mail: jrdactor@maizuru-ct.ac.jp

第一段階プログラム
約10名の受講生を対象に実施します。
プログラムは、約40名の受講生を対象に実施します。
了した受講生の中から、特に優秀な受講生を約10名より第二段階プログラムを実施します。

第二段階プログラム
約10名の受講生を対象に実施します。
プログラムは、約40名の受講生を対象に実施します。
了した受講生の中から、特に優秀な受講生を約10名より第二段階プログラムを実施します。

Q 中学3年生でも応募できますか?
A 応募できます。ただし、受講期間は中学校卒業までです。中学3年生から受講される場合は、第一段階プログラムのみの1年間の参加となります。

Q 参加できない日程があっても応募できますか?
A 応募できます。ただし、第二段階プログラムの受講生の決定は、第一段階プログラムの取り組み状況を考慮して行いますので、応募が多くなります。第二段階プログラムへ進むことが困難になる場合もあることをあらかじめご理解ください。

Q プログラムの内容について、いけなくない心配です。
A 本プログラムは、受講生の能力や進捗に応じた内容を実施いたします。もしも受講中に心配なことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

- 北近畿地方の小中学校などにチラシ・ポスターを送付(5月下旬)
- 舞鶴高専ジュニアドクター育成塾HPによる募集(5月下旬～7月25日)
- …当初予定の7月1日から、7月25日まで締切を延長
- 公開講座や中学校訪問による広報活動



令和4年度の応募: 43名

令和4年度の受講生の選抜：

- 令和2年度からは書類審査のみで選抜
- 作文とアイデアシートを、3つの観点について、3段階で評価



A:科学への関心・興味
B:学習意欲
C:卓越した能力・独創性

について、作文・アイデアシートを3段階で評価

**第一段階受講生:40名
を選抜**

学年・男女比：

第四期生（令和4年度）

（人）

	小5	小6	中1	中2	中3	計
男	12	9	5	8	0	34(85%)
女	1	3	2	0	0	6(15%)
計	13	12	7	8	0	40
	25(62.5%)		15(37.5%)			

第三期生（令和3年度）

（人）

	小5	小6	中1	中2	中3	計
男	16	7	2	3	4	32(74.4%)
女	3	3	0	4	1	11(25.6%)
計	19	10	2	7	5	43
	29(67%)		14(33%)			

学年・男女比：

第二期生（令和2年度）

	小5	小6	中1	中2	中3	計
男	10	5	10	4	0	29(72.5%)
女	7	2	1	0	1	11(27.5%)
計	17	7	11	4	1	40
	24(60%)		16(40%)			

第一期生（令和元年度）

	小5	小6	中1	中2	中3	計
男	6	3	9	10	2	30(71%)
女	3	5	2	1	1	12(29%)
計	9	8	11	11	3	42
	17(40.5%)		25(59.5%)			

地域：

(人)

第四期生 (令和4年度)

	小	中	計	
京都	17	8	25	62.5%
兵庫	3	5	8	20.0%
滋賀	3	2	5	12.5%
福井	2	0	2	5.0%
計	25	15	40	

(舞鶴：9名)

(人)

第三期生 (令和3年度)

	小	中	計	
京都	21	6	27	67.5%
兵庫	5	6	11	27.5%
滋賀	2	2	4	10.0%
福井	1	0	1	2.5%
計	24	16	43	

(舞鶴：11名)

地域：

(人)

第二期生（令和2年度）

	小	中	計	
京都	15	10	25	62.5%
兵庫	7	5	12	30.0%
滋賀	2	0	2	5.0%
福井	0	1	1	2.5%
計	24	16	40	

(舞鶴：6名)

(人)

第一期生（令和元年度）

	小	中	計	
京都	13	17	30	71.4%
兵庫	4	4	8	19.0%
滋賀	0	4	4	9.5%
福井	0	0	0	0%
計	17	25	42	

(舞鶴：11名)

第一段階・第二段階プログラム

第一段階育成プログラム（令和元年度）：

令和元年度（8月～12月、月2回程度・全10回）

- ・ 基礎講座（2回） …数学の基礎知識、測定値の扱い、プログラミング
- ・ 総合的学習（2回） …様々な分野が関わるテーマの学習
（テーマ：防災、エネルギー）
- ・ 課題学習（3回） …4コースでの課題解決型学習
（設計、AI・IoT、ロボット、建築・防災）
- ・ 体験型学習（1回） …連携機関の施設見学・科学館見学
- ・ 特別講義（1回） …技術者・科学者の講演、研究倫理の講義
- ・ 成果発表会と修了式（1回） …取組をもとに発表を行う

⇒40名が成果発表を行い、第一段階を修了。

第一段階プログラム（令和2年度）：

令和2年度（8月～12月、月2回程度・全11回）

- ・ 基礎講座（2回） …数学の基礎知識、測定値の扱い、プログラミング
- ・ 課題学習（6回） …2コースにわかれて課題解決型学習を行う
 - Aコース：設計、ロボット
 - Bコース：AI・IoT、建築・環境
- ・ 留学生交流会（1回） …留学生との交流を通して異文化を学ぶ
- ・ 特別講義（1回） …技術者・科学者の講演、研究倫理の講義
- ・ 成果発表会と修了式（1回） …取組をもとに発表を行う

⇒特別講義の回以外は、すべてオンラインで実施。
38名が成果発表を行い、第一段階を修了。

第一段階プログラム（令和3年度）：

第一段階プログラム

○第三期生（令和3年7月末～12月、全11回）

- ・ 基礎講座（3回） …数学の基礎知識、測定値の扱い、プログラミング
- ・ 課題学習（4回） …対面で実施（2テーマの課題解決型の学習）
 - Aコース：設計、ロボット
 - Bコース：AI・IoT、建築
- ・ 研究倫理の講義と
総合的学習 …対面で実施（総合的学習：防災）
- ・ 留学生交流会と
総合的学習 …対面で実施（総合的学習：エネルギー）
- ・ 特別講義 …対面で実施（招待講演、成果発表の準備）
- ・ 成果発表会と修了式 …取組をもとに発表を行う

⇒第2回・第3回は緊急事態宣言のためオンライン実施、他は対面で実施。37名が成果発表を行い、第一段階を修了。

第一段階プログラム（令和4年度）：

第一段階プログラム**○第四期生（令和4年7月末～12月、全11回）**

- 基礎講座（2回） …数学の基礎知識、測定値の扱い、プログラミング
- 総合的学習（2回） …様々な分野が関わるテーマの学習
- 課題学習（4回） …対面で実施（2テーマの課題解決型の学習）
 - Aコース：設計、ロボット
 - Bコース：AI・IoT、建築
- 研究者倫理の講義と
異文化交流 …研究者倫理の講義と留学生交流会
- 特別講義 …対面で実施（招待講演、成果発表の準備）
- 成果発表会と修了式 …取組をもとに発表を行う

⇒第1回のみオンライン実施、他は対面で実施。37名が成果発表を行い、第一段階を修了。（成果発表会当日の欠席者に後日対応する予定。）

第二段階の実施状況

- ・ 4月末から翌年3月までの内の8ヶ月程度で実施（月2回程度）
- ・ 年度末に成果発表のための研究フォーラムを開催

令和3年度の第二段階

- 令和2年度から継続の6名に加え、新たに15名の第二段階受講生に対して、8つの研究テーマで実施。（対面講座・オンライン講座併用）

	研究テーマ	受講生
1	1人乗り自動車の設計と製作	1名（継続のみ）
2	原子力発電に対する理解を深める	1名
3	イルミネーションの作製	3名（継続1名）
4	レゴロボットの作製と競技	6名（継続2名）
5	建築を知る・建築をデザインする	4名（継続2名）
6	防災マップ製作	1名
7	再帰性と数学	3名
8	宇宙について調べよう	2名

令和3年度 研究フォーラムでの成果発表

(令和4年3月26日) …参加者名

- 舞鶴市商工観光センター コンベンションホールで開催した研究フォーラムで、第二段階受講生のうち20名が成果発表を実施



成果発表の様子



質問する受講生



作品展示



修了式

⇒9名の第二段階受講生が令和4年度も取組を継続中。

令和4年度の第二段階

- 令和3年度から継続の9名に加え、新たに11名の第二段階受講生に対して、9つの研究テーマで令和4年4月より指導を開始。

	研究テーマ	受講生
1	1人乗り自動車の設計と製作	1名(継続のみ)
2	材料強度の実験	2名
3	原子力発電に対する理解を深める	1名(継続1名)
4	イルミネーションの作製	3名(継続1名)
5	レゴロボットの作製と競技	3名(継続1名)
6	建築を知る・建築をデザインする	2名(継続2名)
7	GISで都市の分析	2名(継続1名)
8	再帰性と数学	4名(継続2名)
9	宇宙について調べよう	2名

- 受講生には定期的に取り組み状況についてのアンケートを実施。(希望があれば、運営スタッフとの懇談の機会も設定。)

指導体制の構築

学内実施体制（令和4年度）：

- ・ ジュニアドクター育成塾推進会議
- ・ 事務補助員（2名）の雇用
- ・ 学生メンター（本校学生37名）の配置
- ・ シニアメンター（学科教員4名）の配置
- ・ 教育アドバイザー（中学校教員OB2名）の雇用

令和4年度ジュニアドクター育成塾推進会議：

実施責任者：内海康雄

実施主担当者：上杉智子

実施担当者：宝利剛，谷川博哉，内海淳志，石川一平，
加登文学

事務局：事務部長，総務課，事務補助員

・ 学生メンターの研修（令和4年7月12日）…対面実施

- ▶ 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 片山紀子教授を講師にお迎えして、コーチングについての研修を実施
- ▶ 対象：学生メンター、シニアメンター、実施担当者

・ 学生メンター間の情報共有と教育

- ▶ 教育アドバイザーからのアドバイス、受講生の情報などを各学科のシニアメンターを通じて共有
- ▶ 各講座の前後に、担当の学生メンターを集めて受講生指導に関するミーティングを実施

指導方法・評価方法の開発

第一段階での指導の工夫

- ・初年度より、教材プリントや説明スライドの文字には、小学校5年生に合わせたルビを振る。
- ・教材プリントには発展問題、発展的学習につながる解説を加えている。
- ・各講座での受講生からの質問への回答をプリントにまとめ、全受講生に配布し、受講生どうしが互いに刺激を与えあうようにしている。

コロナ禍での対応（オンライン講座での工夫）

- ・受講生にはカメラをONにして受講してもらう。
- ・講義形式の説明は連続して15分（長くても20分）まで。
- ・20分～30分ごとに10分間の休憩を入れる。
- ・工作などの際は一人一人に声掛けを行い、受講生全員と必ず対話を行う。
- ・年齢層が低いため、欠席者対応もオンデマンドではなく、別日にオンラインで実施。

第二段階での指導の工夫

- ・ 受講生との連絡を行う際には、運営スタッフが含まれるグループメールを使用することで、常に複数名で情報共有を行う。
- ・ 令和3年度より、受講生のサポート強化のため、定期的に運営メンバーによるアンケートや面談を実施。
- ・ 令和3年度より、複数の研究テーマの受講生どうしの交流の機会を取り入れ、互いに刺激を与えあうことを促している。今年度は既に2回の交流会を実施。

第一段階受講生の能力の評価

- 選抜時のデータと、初回に実施する基礎学力調査(数学の問題)により取組開始時の能力の評価を行う。
- 実施担当者による評価を取組ごとに実施し、初回の結果と比較することで、能力の伸長を評価している。
- 初回ガイダンス時と第一段階の最後に、実施担当者による評価に加え、受講生による自己評価、保護者等へのアンケートを実施し、育成プログラムや評価方法の検証に利用している。

- 実施担当者による評価を取組ごとに実施し、初回の結果と比較することで、能力の伸長を評価する。(目標水準:4段階評価の3以上)

評価項目	定義	開始時 (R1)	終了時 (R1)	開始時 (R2)	終了時 (R2)	開始時 (R3)	終了時 (R3)
基礎学力	数学的・科学的な基礎知識を一定以上備えている	2.3	3.2	2.5	2.9	2.7	2.9
科学への興味・関心	自然現象や数式、身の回りの諸問題などに興味を持つことができる	2.3	3.3	2.1	3.0	2.3	3.1
表現力	自分の意見を人に伝えられる	2.3	3.3	2.2	3.2	2.4	2.9
観察力	物事をありのままにとらえ、そこから自ら知識を吸収することができる	2.4	3.3	2.2	2.9	2.3	3.0
論理的思考力	物事を筋道立てて考えることができる	2.1	3.1	2.1	2.9	2.3	2.9

4段階で評価

4: 自ら課題を見つけ、能動的にこなせる

3: 与えられた課題を能動的にこなせる

2: 与えられた課題を簡単なサポートがあれば行える

1: 与えられた課題を十分なサポートがなければ行えない

第一段階の育成目標

- 受講生の60%が目標水準(3以上)に達すること

評価項目(能力・資質)	達成率(%)						
	目標	開始時 (R1)	終了時 (R1)	開始時 (R2)	終了時 (R2)	開始時 (R3)	終了時 (R3)
基礎学力	60	26	62	50	63	51	61
科学への興味・ 関心	60	29	79	10	90	12	73
表現力	60	29	64	18	98	22	71
観察力	60	43	71	18	73	12	76
論理的思考力	60	14	88	5	65	7	88

⇒達成している

第二段階受講生の能力の評価

- 各研究テーマの指導教員が、成果発表会の準備までの時点での、受講生の評価を行う。成果発表会における受講生の評価は、受講生の指導教員とは別の実施担当者が行う。
- 第二段階プログラム終了時の受講生の評価を、開始時の評価と比較することで、受講生の能力の伸長について分析する。
- 第一段階プログラムと同様、取組開始時と終了時に、受講生による自己評価、保護者へのアンケートを実施。

- 第二段階成果発表会前・発表会での能力の評価を開始時の評価と比較することで、能力の伸長を評価する。(目標水準:4段階評価の3以上)

評価項目 (能力・資質)	能力・資質の定義	開始時 (R2)	終了時 (R2)	開始時 (R3)	終了時 (R3)
課題提案力	物事をとらえて分析し、解決が必要な課題を発見できる	2.3	3.2	2.5	3.3
課題解決に挑戦する力	困難な課題解決に挑戦しようとする力	2.5	3.2	2.9	3.3
分野横断的思考力	異なる分野の事柄を関連付けて考えることができる	2.5	3.0	2.2	3.0
独創性	柔軟に新しい発想・工夫をし、その新しさを他者に説明できる	2.5	3.3	2.5	3.3
高度なコミュニケーション能力	異文化交流を含め、多様な人々の意見を理解し、自分の意見を相手に伝えることができる	2.3	3.1	2.4	3.2
データ解析能力	データの処理・分析が適切に行える	2.2	3.1	2.4	3.3

4段階で評価

- 4: 能動的に実行でき、結果が非常に優秀である
- 3: 能動的に実行でき、結果が優秀である
- 2: 簡単なサポートのもとで結果が出せる
- 1: 十分なサポートがなければ結果が出せない

第二段階の育成目標

評価項目(能力・資質)	達成率(%)				
	目標	開始時 (R2年度)	終了時 (R2年度)	開始時 (R3年度)	終了時 (R3年度)
課題提案力	50	27	93	50	85
課題解決に挑戦する力	50	33	87	50	80
分野横断的思考力	60	47	93	60	65
独創性	60	47	93	60	90
高度なコミュニケーション能力	60	27	93	60	85
データ解析能力	50	13	87	50	90

⇒達成している

評価基準の検討

- 自己評価や保護者へのアンケート、成果発表、各種コンテストへの参加状況などから教育効果を検証する。
- 外部評価委員会で地域の自治体・企業の意見等を取り入れて、取組内容や評価基準の検討を行っていく。
- 現在まで評価基準の変更はないが、今後も受講生の評価基準の妥当性について検討を続ける。

※令和元年度に構築した実施体制について、年1回実施している外部評価委員会での意見交換なども考慮して、今後も検討を続ける。

外部評価委員会の実施

・令和3年度取組の外部評価委員会

日時:令和4年5月18日(水)15:00~16:30

場所:舞鶴高専 大会議室

内容:

- ・1年間の取組報告と意見交換
- ・事業評価の実施

自立展開に向けた計画

地域の企業や自治体、教育機関との関係構築

- ・本事業の教育コンテンツを利用し、連携機関(地域の企業や自治体、舞鶴市教育委員会、京都教育大学、京都工芸繊維大学、福知山公立大学)との協力体制を維持し、地域の理系人材育成のための活動を継続していく。
- ・本校を支援する企業団体「地域テクノアカデミア」の会員企業に対し、本事業の取組紹介を行い、受講生募集にもご協力いただくなど、実施期間終了後も持続的活動を続けることを目指して関係構築を図っている。
- ・令和4年度より、舞鶴市で地域社会の課題解決に取り組み、地域に根差した活動を行っている舞鶴東ロータリークラブと新たに連携し、教材を寄贈して頂くなど、今後の地域の人材育成に向けた計画を進めている。

修了生の活動状況の把握

修了生の動向

令和2年度:

- ・第一段階修了生(第一期生)3名が本校に進学
- ・第一段階修了生(第一期生)40名のうち15名が第二段階へ

令和3年度:

- ・第二段階修了生(第一期生)4名、第一段階修了生(第一期生)1名が本校に進学
- ・第一段階修了生(第一期生)6名が第二段階2年目へ
- ・第一段階修了生(第二期生)38名のうち14名、第一期生1名が新たに第二段階へ

令和4年度:

- ・第二段階修了生(第一期生)2名、第一段階修了生(第一期生1名・第二期生1名、第三期生2名)4名が本校に進学(合計14名の修了生が舞鶴高専に在籍)
- ・第二段階修了生(第一期生)1名が他高専に進学
- ・第二段階修了生のうち、第一期生3名と第二期生6名が第二段階を継続
- ・第一段階修了生(第三期生)37名のうち11名が第二段階へ

修了生の追跡調査のための取組

- ・修了生に対し、高校・高専等に進学後も含め、年一回の追跡調査アンケートを実施することで、動向調査を行う。
- ・第一段階育成プログラムの招待講演や成果発表会などに修了生を招待し、同期生が集まる機会を設けて関係維持を図っている。
- ・特に、舞鶴高専に進学した修了生については、学習の状況等を含む、詳細な追跡調査を今後も続けていく。



修了生との記念撮影(令和4年度の招待講演)

プログラム全体の主な成果・課題

研究成果発表

令和元年度:

- ・令和元年度 第一段階成果発表会…第一期生40名が発表

令和2年度:

- ・サイエンスカンファレンス2020…第一期生(第二段階)3名が発表
- ・令和2年度 第一段階成果発表会…第二期生38名、第一期生1名が発表
- ・令和2年度 研究フォーラム…第一期生(第二段階)13名が発表

令和3年度:

- ・サイエンスカンファレンス2021…第一期生(第二段階)2名が発表
- ・令和3年度 第一段階成果発表会…第二期生37名が発表
- ・令和3年度 研究フォーラム…第一期～二期生(第二段階)20名が発表

令和4年度:

- ・サイエンスカンファレンス2022…第一期生1名、第二期生1名が発表
- ・令和4年度 第一段階成果発表会…当日は第四期生37名が発表

各種コンテスト参加実績

令和4年度:

- ・兵庫県統計グラフコンクール 2名参加
 - …特選(1位) 受賞 1名
 - ⇒全国大会「第70回統計グラフ全国コンクール」出場 佳作 1名
- ・舞鶴高専杯 プログラミングコンテスト(11月) 受講生9名・修了生1名が参加
 - アイデア部門:優秀賞・日立造船株式会社舞鶴工場長賞 受賞 1名
 - ゲーム部門:優秀賞 1名
 - ゲーム部門:インフォニック特別賞 1名

令和3年度:

- ・全日本小中学生ロボット選手権小学生部門 予選通過
- ・舞鶴高専杯 プログラミングコンテスト(11月) 受講生7名が参加
 - …アイデア部門:優秀賞 1名、アイデア部門:部門賞 2名、ゲーム部門:部門賞 1名

令和元年度:

- ・全日本小中学生ロボット選手権中学生部門 決勝大会出場(12月)
 - …ドリーム大賞受賞
- ・スペースロボットコンテスト16クラシック部門出場(11月)
 - …シートプレゼンテーション3位、決勝トーナメント進出・ベスト8

効果の波及・展開

- ・ 本企画の育成プログラムや、小中学生に対するオンライン講座の効果的な実施方法等について、令和2年度のKOSENフォーラムで、高専や大学の関係者を対象として、2件の発表を実施。
- ・ 「文教ニュース」にて本校の取組内容を紹介。（毎年2回程度）
- ・ 本校ホームページ、出前授業・公開講座、入試広報イベント等を通して、広く地域住民への取組紹介を実施。

今後の重点課題とその対策

- 受講生募集のための広報の見直し
 - …今年度は、応募が少なく、募集締切を延長したため、最終年度は募集のスケジュール、範囲を変更したい。
- コロナ禍での育成プログラムの実施方法の検討
 - …オンライン講座の有効な取り入れ方について、今後も試行錯誤を行いながら、検討を続ける。
- 事業の継続実施に向けた具体的な計画の推進
 - …現在の地域の企業や自治体、舞鶴市教育委員会との連携を活用し、実施期間終了後も、コース化した公開講座や成果発表会の開催ができる体制を構築し、継続的な地域の人材育成に向けた計画を具体的に進めていく。